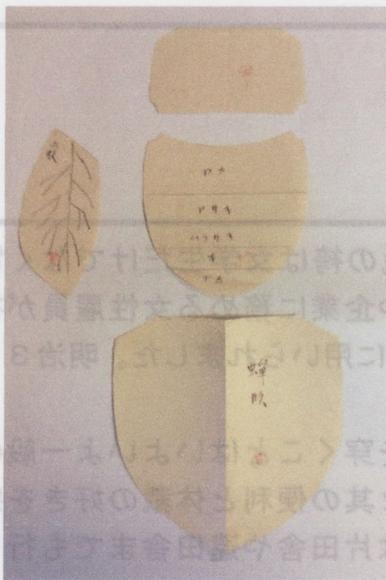




↑6. 大人シャツ

明治20年代から、シャツは従来の襦袢に代わって日常で着られるようになりました。その当時の裁縫書でも取り上げられていることから、シャツは相当な割合で家庭において制作されていたようです。

また、当時の他の裁縫書では「半袖チャツ」や「通常シャツ」、「シャツ襦袢」などの記載が見られ、シャツの種類も豊富だったことがわかりま



↑7. 蟬形型紙

蟬のちりめん細工の型紙です。裁縫教育の中で対象物を「立体的に見る目」を養うには、ちりめん細工は最適な教材であり、当時の女性達には新鮮で興味を引くものでした。

蟬は「泣く子は育つ」という意味で子供の成長を願うために作られていました。また、土中に長くいることから辛抱強い人になって欲しいという願いも込められています。



↑8. 飾り結び見本

飾り結びは帯、帯締め、被布の紐など着物周りの多くのものに使用されてきました。本資料で現存しているのは叶結び、蝶々結び、菊花結び、四つ葉結びです。

紐結びには「もの」と「もの」を結合するという実用的な目的と同時に、縁を結ぶ縁起物として祝儀に欠かせないものでした。飾り結びは長い年月の間に吉凶、性別、文字、計算、法律、占いなどの意味を紐の色、結び方、配置の仕方によって表現するようになりました。

(左上 叶結び、左下 四つ葉結び、右上 蝶々結び、右下 菊花結び)